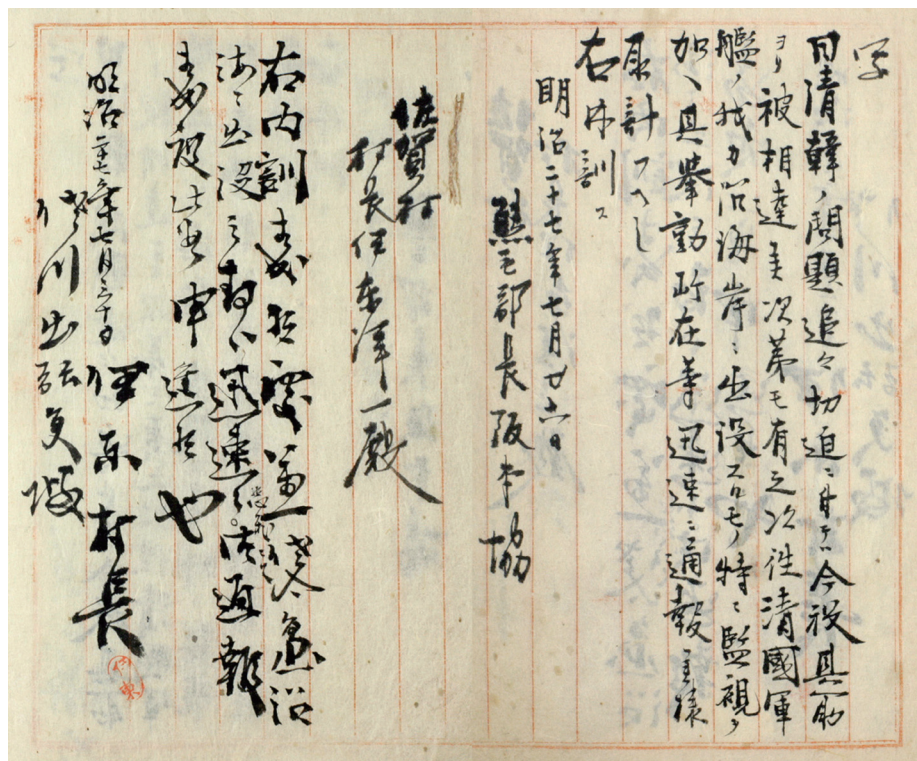


日清戦争（清国船への警戒）



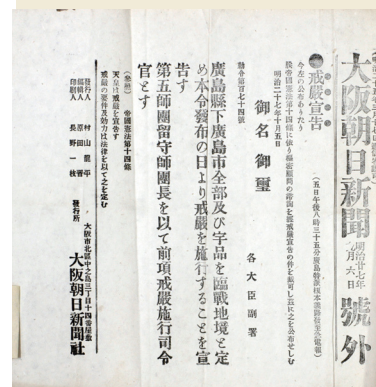
* 佐川家文書（佐合島）3690「日清事件書類」

解説

1894（明治27）年，朝鮮で起こった甲午農民戦争に際し，日清両国が出兵しました。反乱はほどなくおさまリ，朝鮮政府は両軍に撤退をもとめました，朝鮮の内政改革をめぐって日清両国は対立を深めました。7月25日，日本艦隊は宣戦布告をまたずに豊島沖で清国艦隊と交戦し，日清戦争が始まりました。

左の写真は，その翌日にあたる7月26日付で，熊毛郡長から佐賀村長にあてられた通知の写しです。内容は「日本と清国，韓国の問題が次第に切迫していることについて，このたびその筋より達しがあった。今後，わが沿岸で清国の軍艦が出没したら特に監視を加え，その挙動や所在などを迅速に通報するように」となっています。このことは佐賀村長から佐合島出張所に通知され，佐合島沿岸での監視が求められました。島の人々は，沖を行く船の監視を通して，戦争を肌で感じ，同時に緊張感を覚えたのではないのでしょうか。

なお，佐合島は，熊毛郡平生町佐賀から南西へ約2kmの瀬戸内海国立公園内にある自然の美しい島で，当時，およそ1,000人が暮らしていました。



* この「日清事件書類」には，1894（明治27）年10月5日付で広島市全域及び宇品に戒厳令が敷かれたことを報じる朝日新聞号外記事なども収録されています。（写真右）